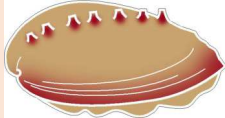


1. 種苗放流の取り組み

種苗放流とは、人工的に生産した魚介類を生育に適した海域に放流して、天然の生産力だけでは足りない資源を増強しようとする取り組みです。現在、漁業者は安定した漁獲を目指し、クロアワビ、サザエ、ヒラメ、キジハタの種苗を購入し地元の海に放流しています。

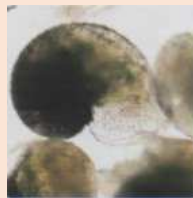
鳥取県内で放流している魚介類

クロアワビ



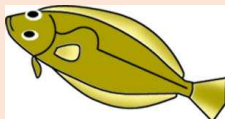
- ・ 秋ごろに採卵して、約1年半かけて3 cm程度に育ててから海に放流します。
- ・ 年間約13万個を県内各地に放流しています。(R3年)

サザエ



- ・ 6～7月ごろに採卵して、約1年かけて1 cm程度に育ててから海に放流します。
- ・ 年間約30万個を県内各地に放流しています。(R3年)

ヒラメ



- ・ 1月ごろに採卵して、5月頃に8 cm程度に育ててから海に放流します。
- ・ 年間約6万尾を美保湾を中心とした地域に放流しています。(R3年)

キジハタ



- ・ 6～7月ごろに採卵して、9月頃に5 cm程度に育ててから海に放流します。
- ・ 年間約2～3万尾を県内各地に放流しています。(R3年)

アユ



- ・ 11月ごろに採卵して、5月頃に5 gサイズに育ててから海に放流します。
- ・ 年間約40～50万尾を県内の河川に放流しています。(R3年)

・丁寧な放流で生き残りを多くする

放流した種苗がなるべく多く生き残るために、一手間をかけて種苗を放流しています。



アワビ
放流直後に天敵に食べられないように小分けにして手撒きすることで効果が上昇



キジハタ
放流直後の密集を防ぎ天敵に食べられないように小分けにして分散放流することで効果が上昇

・単価向上による放流効果向上への取り組み

成長した放流種苗の価値を高めるため、付加価値向上に向けた取り組みも進めています。



活魚出荷による単価向上に向けた取り組み



県産アワビ・サザエのブランド化に資する魅力要素を把握するための調査

【県の支援策】

放流種苗の購入を支援することで、水産資源の増大による水産物の安定供給を図るほか、**将来の漁業者に豊かな漁場を残す**ことを目標とする。

●栽培漁業地域支援対策事業

・海域への種苗放流を積極的に行う者へ種苗購入経費の一部を支援
(放流種苗)ヒラメ、キジハタ:3/4補助

(養殖種苗)マサバ、ヒラメ等:1~3年目3/4、4~5年目1/2、6年目~補助対象外

●持続可能な栽培漁業推進事業

・「持続可能な栽培漁業推進計画」を策定・実践する漁協に対し種苗購入経費の一部を支援
(放流種苗)アワビ:1/4以内(県+市町村で5/12以上)

サザエ:1/3以内(県+市町村で1/2以上)